

イタリアのベルルスコーニ元首相

総選挙で復権もくろむ



2月25日、イタリア・ミラノでの集会で演説するベルルスコーニ元首相（A.P.＝共同）

4日投開票 新首相選び 主導権も

【ローマ共同】イタリア総選挙の投開票が4日に迫る中、汚職や買収など数々のスキャンダルに見舞われてきたベルルスコーニ元首相(81)が復権を狙い、選挙運動を活発化させている。順次第では、新首相選びの主導権を握る「キングメーカー」として君臨する可能性も出てきた。

「私は高級ワインのようなものだ。年とともに熟成され、今や完璧となった」。ベルルスコーニ氏は連日のようにテレビやラジオに出演し、自身が率いる中道右派の野党「フォルクツァ・イタリア」をアピールする。2016年に心臓大動脈弁の手術を受けたことを感懐させないほどだ。

世論調査ではフォルクツァ・イタリアを含む4党をつくる中道右派連合が支持率37%でトップ。過半数の議席獲得は難しいが、政権に

最も近い勢力とみられている。ベルルスコーニ氏はポピュリズム(大衆迎合)的政策で人気を集め、3度首相を務めた。ただ財政危機に十分対応できず、未成年者買春罪で起訴されるなどして11年、辞任に追い込まれた。脱税事件でも有罪となり、19年まで公職に就けない。

フォルクツァ・イタリア単独での支持率は10%。ベルルスコーニ氏の人気が復活したとは言い難い。南部ナポリ近郊の会社員マルコ・リベッティさん(32)は「彼に投票したこともあるが、約束を一つも

守らず失望した」と酷評する。

しかし与党の中道左派、民主党は内紛続きで低迷し、新興組織「五つ星運動」の政権運営能力は未知数だ。ポロニア大のジャンロランコ・パスキーノ名誉教授(政治学)は、消費的選択の結果として一定程度の支持を集めていると指摘する。

中道右派連合が勝利した場合、ベルルスコーニ氏は連立政権樹立に動き、新首相の「指名」に乗り出す公算が大きい。パスキーノ氏は、政権樹立に成功すれば重要政策の決定にも関わってくる可能性があるとみる。さらに公職禁止が解かれる19年を待って「もう一度総選挙を実施することを狙っているのではないかと分析した」。